

「軌跡 - 名優緒形拳とその時代 - 」関係出演作品目録

展示した作品の内容については、本目録をご覧ください。

	出演作品	年月 (西暦)	原作：脚本 監督：演出	役名	共演	解説
1	新国劇の舞台 遠い一つの道	昭和 35. 6. (1960)	作・脚本・脚色・菊 島隆三 演出・内川清一郎	白木保	島田正吾 外 崎恵美子 郡 司八郎	新国劇の看板俳優・島田正吾に見出された緒形拳が初めて主役に抜擢された記念すべき舞台。腕っ節の強い血気盛んな大学生・白木保 緒形拳 をボクシングジムのトレーナー・桑田猛 島田正吾 が育て上げていく。1960年に映画化され、舞台同様、緒形が主役を務めた。
2	丹那隧道	昭和 35.10. (1960)	作・演出 北條秀 司	川西技手	島田正吾 石 山健二郎 秋 月正夫	昭和 9年 (1934)に東海道本線の熱海駅・函南駅間に開通した丹那トンネル。その苦難の掘削工事に挑む人々の不屈の精神を描く。1942年 4月、前進座で初演。劇作家・北條秀司の作劇の上手さ、群衆処理演出の力強さが光る舞台。緒形は三島口詰所主任・技手の川西役を務め、その好演ぶりが新聞紙上で賞賛された。
3	六人の暗殺者	昭和 36.12. (1961)	原作・菊島隆三	伊吹武四郎 (主演)土佐 藩士・曾和役 (一日交替)	大山克巳 高 倉典江	慶応 3年 (1867)11月、京・河原町にある醤油屋近江屋の 2階で、坂本龍馬と中岡慎太郎が議論たけなわの最中、侍達に斬殺された。その前年に龍馬との知己を得て、交流を深めていた土佐藩士・伊吹武四郎は龍馬死亡の報に愕然とする。武四郎はピストルを固く握りしめ、龍馬斬殺への復讐を心に誓った。そして龍馬を手にかけて人物を探し始める…。緒形拳は大山克巳と一日交替で、伊吹武四郎と土佐藩士・曾和を演じた。
4	殺陣師段平	昭和 37.10. (1962)	脚本・演出・長谷 川幸延	澤田正二郎	島田正吾 秋 月正夫 河村 憲一郎	大正 6年 (1917) 澤田正二郎は「時代より先半歩前進」を唱えて「新国劇」を旗揚げ。ところが旗揚げ興行は不入りに終わり、一座は東京を後にした。それから月日は過ぎ、澤田は剣劇に活路を見出そうと思いつく。立ち廻りのことしか頭にない、新国劇の殺陣師・段平には、澤田の目指すリアリズム溢れる殺陣が理解できず苦闘する日々が続く。そんなある時、段平は澤田より「国定忠治」の殺陣を任されることになる…。主人公の段平を島田正吾、新国劇の創始者・澤田正二郎を若き日の緒形拳が演じる。
5	パイナッブル軍楽隊	昭和 39. 5. (1964)	原案・團伊玖磨 (「軍楽隊敗残記」より) 脚本・演出・花登 篁	三条軍曹	辰巳柳太郎 / 大山克巳	多くの交響曲・映画音楽を世に残した、日本を代表するクラシック作曲家・團伊玖磨。團自身が 20歳の時に入隊した、陸軍戸山学校軍楽隊の様子を描く。なお、脚本と演出を担当したのは、テレビ番組「番頭はん」と「稚どん」細うで繁盛記」「どてらい男」で知られる劇作家の花登篁。花登は新国劇でも「艶歌師」「芸者学校」などの秀作を提供している。
6	極付 新撰組	昭和 39. 9. (1964)	脚本・行友李風	土方歳三	島田正吾 大 山克巳 高倉 典江	勤王攘夷派の浪士らが暗躍する幕末期の京。その京の壬生に屯所を構える新撰組は長州藩などの尊王攘夷派志士を取り締まるべく、近藤勇隊長のもと三条の旅館「池田屋」を襲撃した。しかし、時代は着実に大政奉還へと動きつつあった…。近藤勇役に島田正吾。土方歳三役の緒形拳は精悍さある演技を見せている。なお、緒形は 1964年初演の「新撰組」伊野信夫作・演出で沖田総司を演じている。
7	極付 国定忠治	昭和 39. 3. (1964)	脚本・行友李風	清水の巖鉄	辰巳柳太郎 / 島田正吾 大 山克巳 秋山 正夫	天保飢饉で飢えに喘ぐ農民を救うべく、悪代官を斬った大博徒の国定忠治。忠治は子分とともに、上州赤城山に立て籠もった。御用聞き川田屋惣次や日光の円蔵の説得により、忠治は縛につき、一家を解散する覚悟を決める。緒形は忠治の子分・清水の巖鉄を熱演。もう一人の子分・高山の定八は大山克巳が演じた。ちなみに緒形は 1979年以降、客演として本演目で山形屋藤造を演じている。
8	姿三四郎	昭和 40.10. (1965)	原作・富田常雄	姿三四郎	清水彰 大 山克巳 高倉 典江	柔道をテーマにした長編青春小説の決定版。柔術を志し上京してきた姿三四郎は、「駄道館」の道場主・矢野正五郎 清水彰 と出会い柔道の素晴らしさを目の当たりにする。三四郎は矢野に師事し、厳しい修行とライバルとの死闘を通して人間的に成長していく。本作品は戦中より映画・テレビで幾度となく実写化され、主人公の姿三四郎役には当時の人気俳優が起用されてきた。新国劇版では緒形拳が起用され、見事に好演した。
9	慶安の狼 丸橋忠弥	昭和 40. 2. (1965)	作・小幡欣治	丸橋忠弥	島田正吾 大 山克巳 /	三代将軍・徳川家光の時代。多くの大名家を取り潰されたため、江戸には全国から失職した浪人達が職を

	出演作品	年月 (西暦)	原作：脚本 監督：演出	役名	共演	解説
9						求めて集まり 市中の治安は殊の外乱れていた。その頃、槍術の名手であった浪人の丸橋忠弥は、由井正雪らとともに徳川幕府転覆の陰謀を画策する。しかし 忠弥の旧友 野中小弥太 大山克巳 が陰謀を密告して…。主人公・丸橋忠弥役の緒形拳は迫力ある殺陣をみせるなど力演している。
10	新国劇の舞台 坊っちゃん	昭和 40. 9. (1965)	原作 夏目漱石 脚本 演出 村山知義	“坊っちゃん”こと夏木壮一	辰巳柳太郎 / 佐々十郎	親譲りの無鉄砲で小供の頃から損ばかりしている」といふ冒頭でおなじみの夏目漱石の人気小説を舞台化。東京の物理学校を卒業した「坊っちゃん」こと夏木壮一は、数学教師として四国の旧制中学校に赴任。夏木は、陰湿な性格で悪だくみをする教頭の赤シャツを懲らしめるべく、同僚の数学教師・山嵐とともに立ち向かう 直情的で正義感溢れる主人公「坊っちゃん」を緒形拳が熱演。山嵐を辰巳柳太郎、赤シャツを当時の人気喜劇俳優 佐々十郎が演じる。
11	太閤記	昭和 40.12. (1965)	原作 吉川英治	日吉丸 木下藤吉郎 豊臣秀吉	藤村志保 辰巳柳太郎 大山大山克巳	農民出身から織田信長へ仕官した後、関白・太政大臣に就任し、天下統一を果たすまでの過程を描いた立身出世伝。同年に緒形主演で放送されたNHK大河ドラマ「太閤記」の大ヒットを受け、新国劇が舞台化。初演では秀吉の妻・ねね役に、緒形同様大河版と同じく藤村志保が出演。その他、織田信長役に辰巳柳太郎。舞台版も好評を得て、緒形見たさに女性客が増加したという逸話が残る。
12	若き日の旅	昭和 41. 6. (1966)	作 演出 北條秀司	鉄道省職員・青木	大山克巳 外崎恵美子 香川桂子	山国のひなびた温泉町が舞台。鉄道敷設をめぐる、山向うの町と対立。温泉町は一大事に発展し、町役場の会議室では役場職員、土地の名士らが大わらわになっていた。そんななか、鉄道省の職員・田宮 大山克巳 と青木 緒形拳 が町にやってくるといふ名士たちは、田宮と青木の二人を買収しようと躍起になる…。緒形拳と大山克巳のコミカルな競演が光る。
13	上意討ち	昭和 42.10. (1967)	原作 滝口康彦 (拜領妻始末より) 脚本 榎本慈民	笹原与五郎	辰巳柳太郎 / 大山克巳 香川桂子	享保 11年 (1726) 夏、会津藩 23万石 保科松平家 第三代松平正容の居城である会津若松城では、嗣子・正甫の袴着を祝う武芸試合が催されていた。300石の馬廻り役 笹原与五郎 緒形拳 はその試合に番方侍組の総大将として出場し、番方に勝利をもたらした。しかし、この勝利をきっかけに与五郎のもとに、会津藩より藩主の側室・お市の方 香川京子 を自らの妻として拝領せよという「上意」が伝えられ…。
14	日本のいちばん長い日	昭和 43. 3. (1968)	原作 大宅壮一・文藝春秋「戦史研究会」 監修 岡本喜八	畑中少佐 (陸軍省軍務課員)	島田正吾 大山克巳 郡司良	アジア・太平洋戦争の戦局が次第に不利になってきた日本。広島と長崎に原子爆弾が投下されるなか、アメリカ・イギリス・中国によるポツダム宣言を受諾するか否かが揺れる内閣。第1回の御前会議でポツダム宣言の受諾が決定したものの、「国体」をめぐる意見の分かれる政府、軍部内部。最後の御前会議から天皇の終戦玉音放送までの24時間を史実に基づいてドキュメント風に描く。新国劇では1967年頃より本演目のほか、「あゝ同期の桜」といった戦争をテーマにした作品が登場する。
15	王将	昭和 50. 6. (1975)	作 北條秀司	坂田三吉	沢かをり/本郷秀雄 杉浦エイスケ	劇作家・北條秀司が新国劇の辰巳柳太郎のために書き下ろした戯曲。大阪の将棋棋士 坂田三吉の波瀾万丈の生涯を描く。1947昭和 22年 6月、有楽座での初演では、坂田三吉の、関根金次郎との初対戦から、関根の名人襲位、坂田の妻・小春の死までを描く。ライバル棋士の関根金次郎・木村義雄・花田長太郎との対戦、妻・小春の死などを軸にストーリーが展開していく。1950昭和 25年 1月には、大阪歌舞伎座で「続王将」として上演され、坂田三吉の関西名人襲位から、木村義雄、花田長太郎との対決までが描かれた。さらに同年 12月には、京都南座で「王将 終篇」と題して、三吉の死去までを描いた。これは後に「王将三部作」とされ、すべてを通した脚本を「王将一代」と称した。緒形は、1975昭和 50年、北條秀司劇作 40周年記念公演で初めて坂田三吉に挑戦し、以後、翌 76年、78年、そして事実上の新国劇解散の舞台となった新国劇創立 70周年記念公演で「王将」を演じた。
16	テ 太閤記	昭和 40. 1. (1965)	放送局 制作会社 :NHK	木下藤吉郎 羽柴秀吉	高橋幸治 藤村志保 /	大河ドラマの3作目。天下人に登り詰めた豊臣秀吉の一代記。戦国の世の人間模様を新鮮な感覚で生

	出演作品	年月 (西暦)	原作：脚本 監督：演出	役名	共演	解説
16	テレビの時代へ		原作 吉川英治 (『新書太閤記』より) 脚本 茂木草介 監督 吉田直哉	豊臣秀吉	石坂浩二	き生きと描く。NHK大河ドラマ前2作がスター総出演だったのに対し、新国劇の若きホープだった緒形拳を主役、文学座研究生の高橋幸治を織田信長役、慶應義塾大学在学中だった石坂浩二を石田三成役に抜擢した。放映前年に開通した東海道新幹線が走る現代の描写からドラマをスタートさせるなど、斬新な手法が話題となった。
17	テレビの時代へ	昭和41.1. (1966)	放送局 制作会社 :NHK 脚本 村上元三 監督 吉田直哉	武蔵坊弁慶	7代目尾上菊五郎 富司純子	大河ドラマの4作目。悲劇の運命をたどった武将・源義経の人生を描く。前年放映の3作目で豊臣秀吉役を務めた緒形拳が2作連続で出演。ロケ中に見物人から「秀吉さん精が出るね」と声をかけられたエピソードも。主役の義経を演じたのは放映開始時23歳であった若手の尾上菊之助(7代目・菊五郎)と五条大橋での義経と弁慶の立ち回り、目を見開いた弁慶の立ち往生などが人気を博した。壇ノ浦合戦のシーンでは最新の合成技術が駆使された。
18	黄金の日々	昭和53.1. (1978)	放送局 制作会社 :NHK 原作 城山三郎 脚本 市川森一、長坂秀佳	豊臣秀吉	市川染五郎(2代目松本白鸚)/8代目松本幸四郎	大河ドラマ第16作目。戦国時代に巨万の富を築いた貿易商・呂宋助左衛門の剛胆な生涯を描いた。主演は人気歌舞伎役者・市川染五郎(2代目松本白鸚)と漂流した助左衛門を助ける海賊船の船長・高砂甚兵衛役を8代目松本幸四郎が務め、親子競演が実現した。緒形拳は本作でNHK大河ドラマ2度目となる秀吉役に挑戦。『太閤記』での快活で明るい秀吉とは対照的に、堺の商人を追い詰める高圧的な秀吉を演じた。
19	太平記	平成3.1. (1991)	放送局 制作会社 :NHK 原作 吉川英治 (『私本太平記』より) 脚本 池端俊策、仲倉重郎 監督 佐藤幹夫、門脇正美、田中賢二、榎戸崇泰、峰島総生、竹林淳、尾崎充信	足利貞氏	真田広之 高嶋政伸	室町幕府初代将軍となった足利尊氏の活躍を中心に、鎌倉時代末期から南北朝時代の動乱を描く。南北朝時代を取り上げた初めての大河ドラマ。群馬県太田市や栃木県足利市に大規模なオープンセットが作られ、表舞台には現れない、名も無き多くの庶民の行動にも焦点が当てられた。主役の足利尊氏役を真田広之、尊氏と観応の擾乱で対立する弟の直義役を高嶋政伸、兄弟の父・貞氏役を緒形拳が務めた。
20	峠の群像	昭和57.1. (1982)	原放送局 制作会社 :NHK 原作 堺屋太一 脚本 富川元文 監督 岡本憲佑、小林平八郎、田中賢二、松本守正、池村憲章、渡辺丈太、大津山潮	大石内蔵助	郷ひろみ 野村義男 錦織一清 薬丸裕英 三田寛子 小泉今日子	大河ドラマの20作目。赤穂事件に翻弄される浪士たちの人間模様を精緻に描いた。元禄時代を高度経済成長の「峠」、浅野家断絶を企業の倒産と捉えるなど、元通産官僚の原作者・堺屋太一の経済的視点が作品に強く反映された。ベテラン俳優となった緒形拳が主人公・大石内蔵助を演じたほか、郷ひろみ、野村義男、錦織一清、薬丸裕英、三田寛子、小泉今日子といったアイドルが多数出演した。
21	毛利元就	平成9.1. (1997)	放送局 制作会社 :NHK 原作 永井路子 (『山霧』、『元就、そして女たち』より) 脚本 内館牧子 監督 松岡孝治、小林武、吉川邦夫、佐野元彦、越智篤志、渡邊良雄、今井洋一、磯智明、山本敏彦	尼子経久	中村橋之助(8代目中村芝翫)/上川隆也	大河ドラマの36作目。毛利元就生誕500周年記念作品。戦国乱世を激しく生きた毛利元就の生涯を描く。主演は歌舞伎役者・中村橋之助(8代目中村芝翫)と家族・家臣とともに幾多の苦難を乗り越え、安芸の小領主から中国10ヵ国を支配する戦国大名へと成長していく。元就の前に立ちちはだかり、大きな影響を与えるライバル・尼子経久を緒形拳が熱演した。本作から本格的にCG技術が導入されるなど、大河ドラマ史上、画期的作品となった。
22	風林火山	平成19.1. (2007)	放送局 制作会社 :NHK 原作 井上靖 脚本 大森寿美男 監督 清水一彦、田中健二、磯智明、東山充裕、亀村朋子、福井充広、大杉太郎、清水拓哉	宇佐美定満	内野聖陽/2代目市川亀治郎(4代目市川猿之助)/Gackt	大河ドラマ46作目。武田信玄に仕えた伝説的軍師・山本勘助。その知謀と情熱に満ちた波瀾万丈の人生を描く。主演は文学座で俳優としての実力を磨いた内野聖陽。武田信玄役の歌舞伎役者・2代目市川亀治郎、上杉謙信役のミュージシャンGacktなど、大河ドラマ初出演の俳優が多くキャストイングされた。その中において謙信の軍師・宇佐美定満をベテラン緒形拳が演じた。共演決定後、緒形はGacktの音楽を車の中でよく聞いていたというエピソードも。
23	ナショナルゴールデン劇場 風林火山	昭和44.1. (1969)	放送局 制作会社 :NET、俳優座 原作 井上靖	武田信玄	栗原小巻 原野英治郎	『ナショナルゴールデン劇場』としてNETテレビ現・テレビ朝日にて放映。第6回放送批評家賞(ギャラクシー賞)受賞。一大勢力を築いた戦国大名・武田

	出演作品	年月 (西暦)	原作：脚本 監督：演出	役名	共演	解説
23			脚本 稲垣俊 監督 大村哲夫、 奈良井仁一			信玄 緒形拳) その側室・由布姫 栗原小巻) 軍師・山本勘助 東野英治郎) を軸に、戦国時代の入り組んだ人間関係を描く。由布姫役の栗原小巻はこの作品でテレビ大賞優秀タレント賞を受賞した。
24	テレビの時代へ 丹下左膳	昭和 45. 4. (1970)	放送局 制作会社 :東映、NET 原作 林不忘 脚本 押川国秋、 松山威、永野靖忠 監督 佐伯清、今 村農夫也、西山 正輝、伊賀山正 光、工藤栄一、永 野靖忠	丹下左膳	朝丘雪路 / 厩 門ケン坊 / 多 々良純	原作は林不忘が『東京日々新聞』『大阪毎日新聞』などで連載した小説。架空の剣士・丹下左膳の活躍を描く。映画や舞台、テレビドラマなどで大衆時代劇のヒーローとして、その地位を確立していた主人公・丹下左膳を緒形拳が熱演。新国劇の看板俳優・辰巳柳太郎も『新国劇アワー 丹下左膳』(1960年、フジテレビ系列)にて同役を務めていた。
25	必殺仕掛人	昭和 47. 9. (1972)	放送局 制作会社 :ABC、松竹 原作 池波正太郎 (『仕掛人 藤枝梅 安』より) 脚本 池上金男、 國弘威雄、安倍 徹郎、山田隆之、 石堂淑朗、早坂 暁、松田司、山崎 かず子、本田英 郎、池田雄一、鈴 木安、津田幸夫 監督 深作欣二、 三隅研次、大熊 邦也、松本明、松 野宏軌、長谷和 夫、プロデューサ ー 山内久司、仲 川利久、櫻井洋 三	藤枝梅安	林与一 山村 聡	人気時代劇『必殺シリーズ』の1作目。仕掛人が虐げられた依頼人から金銭を受け取って悪人たちを抹殺していくストーリー。当時の人気時代劇『牴牾紋次郎』に対抗するため、ホームドラマの要素を強く押し出し、現代的作風に仕上げられた。仕掛人の1人、鍼医者・藤枝梅安役を緒形拳が務めた。人足口入稼業の音羽屋半右衛門からの依頼を受け、商売道具の鍼で確実に標的を仕留めるその腕は超一流。欲望が強く、世慣れたヒーローを熱演した。緒形は、本作で第10回ギャラクシー賞を受賞している。
26	新春特別企画ドラマ 徳川家康	昭和 63. 1. (1988)	放送局 制作会社 :東映、TBS 原作 :原案 高田 宏治 脚本 高田宏治 監督 降旗康男 役名 豊臣秀吉	豊臣秀吉	松方弘樹 山城 新伍 千葉 真一	TBS大型時代劇スペシャルの2作目。天下人に登り詰める戦国大名・徳川家康の活躍を中心に、桶狭間の戦いから関ヶ原の戦いまでを描く。総制作費5億円という巨額が投じられた。徳川家康を松方弘樹、織田信長を山城新伍、豊臣秀吉を緒形拳、家康の家臣・石川数正を千葉真一が演じた。緒形にとっては大河ドラマ『太閤記』『黄金の日々』に引き続いての秀吉役であった。
27	聖徳太子	平成 13.11. (2001)	放送局 制作会社 :NHK(大阪放送 局) 脚本 池端俊策 監督 佐藤幹夫	蘇我馬子	本木雅弘 松坂 慶子 中谷 美紀 宝田明	NHK大阪新放送会館完成記念番組として放映。謎の多い人物・聖徳太子(厩戸皇子)その人間像に壮大なスケールで迫る。聖徳太子を本木雅弘、推古天皇を松坂慶子、蘇我馬子を緒形拳、太子の妻・刀自古郎女を中谷美紀、物部守屋を宝田明が演じた。緒形は「歴史上の人物をたくさん演じてきましたが、馬子は最も古い。太古の風をいかに出していけるかがポイントですね」と述べ、「太古の世界の匂いを感じてもらうように」との思いで演じたという。
28	金曜ドラマ ブラックジャック によろしく	平成 15. 4. (2003)	放送局 制作会社 :制作 JTBSエン タテインメント現・T BSテレビ) 製作・ 著作 JTBS 原作 佐藤秀峰 脚本 後藤法子 監督 平野俊一、 三城真一、山室 大輔、チーフプロ デューサー 貴島 誠一郎	服部脩	妻夫木聡	佐藤秀峰による同名漫画をテレビドラマ化。2003年4月1日より6月20日までの間、TBS系の金曜ドラマ枠として放映。研修医・斉藤英二郎の視点から日本の大学病院や医療現場が抱える問題を鋭くえぐる社会派ドラマ。主人公・斉藤役にはテレビドラマ初主演となる妻夫木聡が抜擢された。緒形拳は半人前の斉藤を叱咤激励する誠同病院長・服部脩を演じた。
29	ひまわりさん 遺失物係を命ず!	平成 16. 3. (2004)	放送局 制作会社 :制作協力 国際 放映、制作 JTBS エンタテインメント 現・TBSテレビ) 制作著作 JTBS 原作 鶴田一文、 テリー山本 脚本 橋本以蔵	越知義郎	小澤征悦 川 原亜矢子	『月曜ミステリー劇場』としてTBS系にて放映。警察の遺失物係は署内で「暇なおまわりさん」、略して「ひまわりさん」と呼ばれていた。「ひまわりさん」たちは街の人々の協力を得ながら事件を解決に導いていく。横浜港町西署遺失物係のベテラン刑事・落しの越知」とこと越知義郎を緒形拳、越智とコンビを組む若手警察官・真島純平を小澤征悦、刑事課の小泉玲子を川原亜矢子が演じた。

	出演作品	年月 (西暦)	原作：脚本 監督：演出	役名	共演	解説
29			監督 北畑泰啓			
30	山田太一スペシャル 2005 いくつかの夜	平成 17.10. (2005)	放送局 制作会社 ：制作協力 CBC クリエイション、製 作 著作 CBC 脚本 山田太一 監督 山本恵三	中谷恒平	鶴田真由 内 田朝陽	さまざまな世代の人々が孤独の中で他人を思いや り 関わっていく。その難しさ、大切さを描く。息子夫婦と二世帯住宅に住む元公務員・中谷恒平を緒形拳、マンガ喫茶の店長・井沢俊也を内田朝陽、自殺を図ったところを助けられたことで中谷との交流が始まる女性・百合を鶴田真由が演じた。
31	土曜ドラマ 瑠璃の島	平成 17. 4. (2005)	放送局 制作会社 ：制作協力 ケイ ファクトリー、製 作 著作 日本テレ ビ 原作 森口谿 (呼 乞い 沖縄孤島の 歲月より) 脚本 森下佳子、 寺田敏雄、森下 直、武田有紀 監督 猪股隆一、 池田健司、国本 雅広	仲間勇造	成海璃子 竹 野内豊 小西 真奈美 小日 向文世	日本南端の孤島 鳩海島。この架空の島を舞台に 少女の成長を瑞々しく描く。親に捨てられ、都会の 暮らしで心が荒んだ少女 藤沢瑠璃を成海璃子、瑠 璃の里親となる仲間勇造を緒形拳が演じた。瑠璃た ちは過疎化して廃校寸前となった小学校を守るため 島に渡る。島の人々との心の交流、雄大で美しい自然に囲まれた日々の暮らし。瑠璃は温かい心を取り 戻し、人として成長を遂げていく。
32	広島発特集ドラマ 帽子	平成 20. 8. (2008)	放送局 制作会社 ：制作協力 NHK プラネット 制作・ 著作 NHK広島 放送局) 脚本 池端俊策 監督 黒崎博	高山春平	玉山鉄二 田 中裕子	開局 80年を迎えたNHK広島放送局が風化しつつあ る被爆体験を後世に伝えるため制作。平成 20年度 文化庁芸術祭テレビドラマ部門優秀賞受賞作品。 人間の誇りとはい何か。広島の人々が帽子店を営む胎 内被爆者 高山春平 緒形拳 の視点から問いかけ る。顔なじみの警備員・吾朗 玉山鉄二 を捨てた母 親が幼なじみの世津 田中裕子 であることを知った 春平。吾朗とともに東京の世津を訪ねるが、彼女は 癌の床にあった。この時、緒形自身も癌に蝕まれて おり、病魔が迫る中、役者魂を燃やして撮影に臨ん だ。緒形最後の主演作品。
33	フジテレビ開局 50 周年記念ドラマ 木曜劇場 風のガーデン	平成 20.10. (2008)	放送局 制作会社 ：制作協力 F C、制作著作 フ ジテレビ 脚本 倉本聰 監督 宮本理江子	白鳥貞三	中井貴一 神 木隆之介 黒 木メイサ	2008年 10月 9日から同年 12月 18日の間、フジテレビ 系の木曜劇場枠として放送。フジテレビ開局 50周年 記念のドラマ第 1弾。中井貴一扮する末期癌とな った麻酔科医・白鳥貞三が北海道・富良野の家族の もとに戻り、臨終を迎えるまでを描く。白鳥と断絶状 態にあった父・白鳥貞三を演じた緒形拳は放送開 始直前の 2008年 10月 5日に急逝。本作が遺作とな った。番組タイトルの題字は緒形の筆。緒形最後の テレビドラマとなった。
34	多様化する映画文化のなかで 遠い一つの道	昭和 35. (1960)	制作 配給：製 作 東京映画、 配給 東宝 原作 菊島隆三 脚本 安藤日出 男、内川清一郎、 菊島隆三 監督 内川清一郎	白木保	島田正吾 福 田公子 木暮 実千代	新国劇で上演した原作を映画化した作品。監督の 内川清一郎が脚色にも関わった。辰巳柳太郎に憧 れて新国劇入りした緒形が初めて主役に抜擢され た舞台が「遠い一つの道」であった。緒形はこの作 品の映画化により銀幕デビューを果たした。緒形が 演じたのは腕っ節の強い血気盛んな大学生・白木 保。ボクシングジムで後進の育成に励むかつてのバ ンタム級チャンピオン・桑田猛を新国劇の看板俳優 ・島田正吾が演じた。
35	鬼畜	昭和 53. (1978)	制作 配給 松竹 原作 松本清張 脚本 井手雅人 監督 野村芳太郎	竹下宗吉	岩下志麻 大 滝秀治 加藤 嘉	印刷屋を経営する竹下宗吉 緒形拳 のもとに妾の 菊代 小川真由美 が押し掛け、3人の子どもを置いて いく。宗吉の妻・お梅 岩下志麻 は妾の子に冷たくあ たり、次男は衰弱死する。お梅に迫られた宗吉 は長女を東京タワーに置き去りにし、長男を崖から 突き落とす。一命を取り留めた長男は殺人未遂容疑 で拘束される父を必死で庇う。その姿を見た宗吉は 罪悪感から号泣する。緒形はこの作品で第 2回日本 アカデミー賞主演男優賞、第 2回ブルーリボン賞主 演男優賞、第 33回毎日映画コンクール主演男優 賞、第 3回報知映画賞主演男優賞などを受賞し、映 画俳優としての地位を固めた。
36	復讐するは我にあり	昭和 54. (1979)	制作 配給 松 竹、今村プロダク ション 原作 佐木隆三 脚本 馬場当 監督 今村昌平	榎津巖	三國連太郎 / 倍賞美津子 / 小川真由美	第 74回直木賞を受賞した長編小説の映画化作品。 第 22回ブルーリボン賞 作品賞、第 3回日本アカデ ミー賞 最優秀作品賞などを受賞。5人が殺害された 西口彰事件を題材に、殺人者の生い立ち、父との 相克を描く。殺人と逃亡を繰り返す連続殺人犯 榎 津巖を緒形拳、父・鎮雄を三國連太郎が演じた。榎 津は 78日間の逃亡生活の末、以前関係を持った売 春婦の通報により逮捕、処刑される。処刑後、鎮雄 は山頂から空に向かって榎津の遺骨を散骨する。

	出演作品	年月 (西暦)	原作：脚本 監督：演出	役名	共演	解説
37	Mishima: A Life In Four Chapters	昭和 60. (1985)	制作 配給 :フィルム・リンク・インター ナショナル、ゾエト ローブ、ルーカス ・フィルム 脚本 ポール・シ ュレイダー、レナ ード・シュレイダー 監督 ポール・シ ュレイダー	三島由紀夫	大谷直子 加 藤晴子 三上 博史	日米合作映画。1985年にアメリカ、ヨーロッパなどで 公開されたが、日本では未公開。第 38回カンヌ国際 映画祭最優秀芸術貢献賞受賞。美 (beauty) 芸術 (a rt) 行動 (action) 文武両道 (harmony of pen and sw ord) の 4つのチャプター から三島由紀夫の壮絶な生 涯を描く。緒形拳は 2歳から45歳までの三島由紀 夫を演じた。日本人俳優が日本語で演技をしている ため、英語の字幕とナレーションが挿入されている。
38	砂の器	昭和 49. (1974)	制作 配給 松 竹、橋本プロダク ション 原作 松本清張 脚本 橋本 忍、山 田洋次 監督 野村芳太郎	三木謙一	加藤剛 丹波 哲郎 森田健 作	松本清張の長編推理小説を映画化した作品。松竹 株式会社 橋本プロダクション 第 回提携作品。第 29 回毎日映画コンクール大賞 (日本映画) 脚本賞 監 督賞 音楽賞、キネマ旬報賞脚本賞、1974年度ゴー ルデンアロー 賞作品賞、ゴールデングロス賞特別 賞、モスクワ国際映画祭審査員特別賞 作曲家同盟 賞などを受賞。気鋭の若手音楽家 和賀英良 加藤 剛 の過去に警視庁捜査一課警部補 今西栄太郎 丹波哲郎 が迫る。和賀の過去を知るがゆえに撲殺 された元亀高駐在所巡査 三木謙一を緒形拳が演 じた。
39	魚影の群れ	昭和 58. (1983)	制作 配給 松竹 富士 原作 吉村昭 脚本 田中陽造 監督 相米慎二	小浜房次郎	夏目雅子 佐 藤浩市	吉村昭の短編小説の映画化作品。北の大海原で巨 大マグロと格闘する大間の漁師とそれを寡黙に待つ 女たちの壮大なスケールの人間ドラマ。本州最北端 の北下半島で長期オールロケを敢行。頑固なマグロ 漁師 小浜房次郎を緒形拳、房次郎が男手一つで 育て上げた愛娘・トキ子を夏目雅子、漁師になろうと 志すトキ子の恋人 依田俊一を佐藤浩市が熱演し た。
40	權	昭和 60. (1985)	制作 配給 東映 原作 宮尾登美子 脚本 高田宏治 監督 五社英雄	富田岩伍	十朱幸代 岸 笛光子 島田 正吾	宮尾登美子と五社英雄の名コンビが 鬼龍院花子 の生涯『陽暉楼』に続き世に送り出した作品。大正 昭和の高知 緑町界隈で芸妓・娼妓紹介業を商う 一家に起こる愛と悲しみの事件の数々と夫婦の別 離を描く。女術稼業に誇りを持つ富田岩伍を緒形 拳、その妻 喜和を十朱幸代、岩伍と同業で大貞楼 の女将 大貞を岸笛光子、岩伍の後ろ盾となる四国 造船会長 森山大蔵を島田正吾が演じた。
41	薄化粧	昭和 60. (1985)	制作 配給 松 竹、五社プロダク ション、映像京都 原作 西村望 脚本 古田求 監督 五社英雄	坂根藤吉	藤真利子 川 谷拓三 松本 伊代	別子銅山の社宅で起きた実際の事件を題材とした 西村望の同名小説の映画化作品。妻子を殺害し 刑務所を脱走した男の逃亡劇。山奥の鉱業所で働 く鉱夫 坂根藤吉 緒形拳 は男女関係のもつれから 妻子を殺害し、逃亡生活を送る中で薄幸の女性ち え 藤真利子 と出会う 親密な関係となったちえは、 ある日、坂根に盾墨を引く、刑事 真壁一郎 (川谷拓 三) の執拗な捜索は続き、坂根は薄化粧をして出歩 くようになる。
42	女術 ZEGEN	昭和 62. (1987)	制作 配給 東 映、今村プロダク ション 脚本 今村昌平、 岡部耕大 監督 今村昌平	村岡伊平治	倍賞美津子 / 三木のり平	明治後期から昭和初期にかけてシンガポールやマ ニラなどで女術をしていたとされる実在の人物 村岡 伊平治の波乱に満ちた人生を描く。村岡 緒形拳 は 幼なじみの女性しほ 倍賞美津子 が香港で娼婦に なっていることを知る。しほを救い出した村岡であっ たが、自ら娼館を経営する女術となる。今村昌平が 映画『轢山節考』以来の監督を務め、第 40回カンヌ 国際映画祭に出品したが評価は今ひとつ。興行も 振るわなかった。
43	火宅の人	昭和 61. (1986)	制作 配給 東映 原作 檀一雄 脚本 神波史男、 深作欣二 監督 深作欣二	桂一雄	原田美枝子 / 三國連太郎 / 池内淳子	第 2回読売文学賞 (小説部門) 第 8回日本文学大 賞を受賞した檀一雄の同名長編小説の映画化作 品。1979年に山田信夫脚本でテレビドラマ化 (日本 テレビ系) 『火宅』は汚濁と苦悩に悩まされて安住 できないことを、燃えさかる家にたとえた仏教用語。 桂一雄 緒形拳 は妻子があらながらも、新劇女優・ 矢島恵子 原田美枝子 と同棲して小説を執筆する など放蕩生活を送る。
44	長い散歩	平成 18. (2006)	制作 配給 :製 作 ビロ・ピクチャ ーズ、配給 井ネ ティック 原作 :原案 奥田 瑛二 脚本 黒土三男 監督 黒土三男	安田松太郎	高岡早紀 杉 浦花菜 松田 翔太	『少女 ~ an adolescent』『るにん』に続く奥田瑛二監 督による長編 3作目。モンドオール世界映画祭グラン プリ 国際批評家連盟賞、エキュエニック賞受賞。 妻に先立たれた初老の男と心を閉ざした少女との心 の交流を静穏な映像美で描く。校長職を退職して小 さなアパートに移り住んだ安田松太郎 緒形拳) そ の隣部屋では少女 幸 杉浦花菜 が母親 高岡早 紀 から虐待を受けていた。安田は幸を救うために部

	出演作品	年月 (西暦)	原作：脚本 監督：演出	役名	共演	解説
44						屋から連れ出すが誘拐犯として指名手配されてしま
45	必殺仕掛人 梅安蟻地獄	昭和 48. (1973)	制作 配給 松竹 原作 池波正太郎 脚本 宮川一郎、 渡辺裕介 監督 渡辺裕介	藤枝梅安	林与一 山村 聡	人気テレビドラマシリーズの映画化第 2 作。第 1 作では田宮二郎が仕掛人 藤枝梅安役を務めたが、観客からの要望を受け、本作からテレビドラマ同様に緒形拳が務めることになった。梅安は紀州藩主の毒殺に関わった狡猾な商人 伊豆屋長兵衛 (佐藤慶) の仕掛 暗殺 に取りかかる。危険を察知した長兵衛の手により梅安の家には罠が仕掛けられるが、音羽屋半右衛門 (山村聡) の助けで危機を脱する。祭の夜、櫓の上から転落した伊豆屋。梅安は仕掛の鍼を納めた。
46	ええじゃないか	昭和 56. (1981)	制作 配給 松竹 脚本 今村昌平、 宮本研 監督 今村昌平	古川条理	桃井かおり / 泉谷しげる / 草刈正雄	今村昌平初の時代劇作品。場面は、慶応 2 年 (1866 年) 夏の西両国の見世物小屋から始まる。アメリカへの漂流民であった源次 泉谷しげる が帰国し、その妻イネ 桃井かおり とアメリカへの密航を企てるが、イネの離脱により果たせなかった。源次は、幕末の「ええじゃないか」に参加し、幕府によって射殺される
47	北斎漫画	昭和 56. (1981)	制作 配給：製 作 松竹、配給) 松竹、富士映画 原作 矢代静一 脚本 新藤兼人 監督 新藤兼人	葛飾北斎	西田敏行 田 中裕子 樋口 可南子 乙羽 信子	浮世絵師 葛飾北斎の生涯を幻想的に描いた作品。娘のお栄、友人の戯作者 滝沢馬琴との関係を軸に物語りが展開していく。女性の魔力に取り憑かれた北斎を緒形拳が熟演。お栄役の田中裕子は 15 歳から 70 歳までの、成長していく女性を見事に演じき、話題となった。妻の死を機に人気作家へと駆け上がっていく馬琴役は、『池中玄太 80 年口』(日本テレビ)、『サンキュー先生』(テレビ朝日) などのテレビドラマで人気を博していた西田敏行が務めた。
48	榎山節考	昭和 58. (1983)	制作 配給 東 映、今村プロダク ション 原作 深沢七郎 (『榎山節考』、東 北の神武たち』より) 脚本 今村昌平 監督 今村昌平	辰平	坂本スミ子 / 左とん平 / あ き竹城	深沢七郎の同名小説の 2 度目の映画化作品。カンヌ国際映画祭パルム・ドール受賞。70 歳を迎えた老人は 榎山参り に出なければならぬ。舞台となる山深い寒村の厳しい掟であった。正月間近の夜、緒形拳扮する孝行息子の辰平は逡巡しながらも老母・おりん 坂本スミ子 を背板に乗せて 榎山参り に出かける。長野県北安曇郡小谷村の廃村を中心にオール・ロケで撮影された。緒形拳は当時中学生だった息子の幹太と直人を現地に同行させ、撮影現場の厳しさを教えた。
49	おろしや国酔夢譚	平成 4. (1992)	制作 配給：製 作 大映、電通 配 給 東宝 原作 井上靖 脚本 佐藤純彌、 野上龍雄、神波 史男 監督 佐藤純彌	大黒屋光太夫	西田敏行 川 谷拓三	日本文学大賞を受賞した井上靖の同名長編小説を映画化。小説は蘭学者 桂川甫周がまとめた『桂聞略』などを参考に書き上げられた。和船 神昌丸で漂流した伊勢国白子 (三重県鈴鹿市) の船乗 大黒屋光太夫 緒形拳 を中心に、庄蔵 (西田敏行)・小市 (川谷拓三) と乗組員 17 人の数奇な運命を描く。ソ連崩壊の 1991 年、ロシア協力の下で大規模ロケが敢行された。
50	隠し剣 鬼の爪	平成 16. (2004)	制作 配給：製 作 松竹、日本テ レビ放送網、住友 商事、博報堂 D Y メディアパートナ ー、日本出版販 売、衛星劇場 配 給 松竹 原作 藤沢周平 (『隠し剣鬼ノ爪』、 『雪明かり』より) 脚本 山田洋次、 朝間義隆 監督 山田洋次	堀将監	永瀬正敏 松 たか子	『たそがれ清兵衛』(2002 年公開) に続き山田洋次が藤沢周平の小説を映画化した作品。舞台は架空の幕末小藩 海坂藩。平侍の片桐宗蔵 (永瀬正敏) は謀反を企てたとするかつての剣術の同門 狭間弥市郎 (小澤征悦) を決闘の末に斬る。しかし、藩命を下した家老 堀将監 (緒形拳) が狭間の妻を辱め、死に迫りやうったことを知る。伝授されていた秘技『鬼の爪』を振るい堀の命を奪った宗蔵は、愛する女性 きえ 松たか子 を伴い蝦夷地へと向かう決意をする。
51	蝉しぐれ	平成 17. (2005)	制作 配給：製 作 蝉しぐれ製作 委員会、配給 東 宝 原作 藤沢周平 脚本 黒土三男 監督 黒土三男	牧助左衛門	市川染五郎 (10 代目松本 幸四郎) 木 村佳乃	藤沢周平の長篇時代小説の映画化作品。2003 年には『金曜時代劇』(NHK) にてテレビドラマ化されていた。舞台は架空の幕末小藩 海坂藩。藩内の政治抗争に巻き込まれて切腹した牧助左衛門 (緒形拳) その養子 牧文四郎 (市川染五郎) と隣家の娘・ふく 木村佳乃 との淡い恋心を軸に物語は進展していく。再燃する藩内の政治抗争で手柄を立てた文四郎は家禄を回復し、ふくと結ばれる。節目節目に鳴り響く蝉しぐれが物語に余韻を残す。
52	武士の一分	平成 18. (2006)	制作 配給：製 作) 武士の一分)	木部孫八郎	木村拓哉 檀 れい /	『たそがれ清兵衛』『隠し剣 鬼の爪』に続く山田洋次監督による 時代劇三部作』の完結作。興行収入は

	出演作品	年月 (西暦)	原作：脚本 監督：演出	役名	共演	解説
			製作委員会 配給 松竹 原作 藤沢周平 (『盲目剣返し』より) 脚本 山田洋次、平松恵美子、山本一郎 監督 山田洋次		坂東三津五郎	40億円を超え、松竹配給映画としての歴代最高記録 当時 を樹立した。舞台は架空の幕末小藩 海坂藩。藩主の毒見役を務め、失明してしまう侍 三村新之丞 休村拓哉 とそれを献身的に支える妻 加世 檀れい) 新之丞は加世を弄んだ海坂藩番頭 島田藤弥 坂東三津五郎 と 武士の一分」を賭けた決闘に臨む。緒形拳は新之丞の剣術の師 木部孫八郎を演じた。
舞台への 復帰	信濃の一茶	平成 5. 3. (1993)	劇場 新橋演舞場 作 脚本 脚色 北條秀司 演出 北條秀司	小林一茶	池畑慎之介 / 樹木希林	劇作家 北條秀司が卒寿記念として緒形拳のために書き下ろした戯曲による舞台。1993年 3月、新橋演舞場にて初演。江戸での俳諧修業を経て故郷・信濃国柏原村に帰郷した小林一茶。妻子との死別、家の焼失など 江戸時代を代表する俳人の晩年を緒形が情感豊かに演じた。1996年 5月 19日に北條が死去したため、同氏による最後の作品となった。
	建礼門院 平家物語より	昭和 60. 1. (1985)	劇場 日生劇場 作 脚本 脚色 北條秀司 演出 北條秀司	後白河法皇	若尾文子	平清盛の娘 建礼門院 徳子 を主人公に、平氏の悲しく、哀れな末路を描く。七幕十場の大作。クライマックスとなる大原寂光院の場では緒形拳扮する後白河法皇が若尾文子扮する建礼門院と面会。建礼門院は澄み切った心で天を仰ぎ積年の恨みを解くが、法皇は地獄の底で自分の罪を洗い清めなければならないという思いを伝える。
	大菩薩峠 - 机竜之助の巻 -	平成 6. 3. (1994)	劇場 新橋演舞場 原作 中里介山 作 脚本 脚色 行友李風、構成 島田正吾 演出 島田正吾	机竜之助	水谷良恵 (2代目水谷八重子)	中里介山の同名長編時代小説を舞台化した作品。幕末を舞台に活躍する元甲源一刀流のニヒレな剣士 机竜之助を緒形拳が演じた。甲州大菩薩峠に始まる机竜之助の旅を通して、緊張感のある斬り合い、悲喜こもごもの人間模様を描く。
	リチャード三世	平成 7. 3. (1995)	劇場 銀座セゾン 劇場、札幌市教育文化会館 作 脚本 脚色 シェイクスピア、日本語訳 小田島雄志 演出 ジャイルス・ブロック	リチャード三世	岡田真澄 藤真利子	イギリスの劇作家ウィリアム・シェイクスピアの史劇。舞台は 15世紀のイングランド。ランカスター家とヨーク家の間で戦われた薔薇戦争の最中、ヨーク家のエドワード四世は病に倒れる。王位に就くことを目論む野心家の王弟・グロスター公リチャード(リチャード三世)を緒形拳が熟演。リチャードは巧みな策略で政敵を排除し、念願の王位に就くがボズワースの戦いで味方の裏切りにより戦死する。
	ゴドーを待ちながら	平成 12. 2. (2000)	劇場 Studiocool 他全国 5か所 作 脚本 脚色 サミュエル・ベケット 演出 串田和美	エストラゴン	串田和美	アイルランド出身のフランスの劇作家サミュエル・ベケットによる戯曲。一本の木が立つ田舎の一本道を舞台に展開する不条理演劇。ゴドーという人物を待つ浮浪者の一人 エストラゴンを緒形拳が演じた。劇中でゴドーの正体は明らかにならない。そのことで現代社会の不条理、孤独が表現される。
	子供騙し	平成 14. 9. (2002)	劇場 本多劇場 作 脚本 脚色 水谷龍二 演出 水谷龍二	倉田和寿	篠井英介	南三陸のひなびた床屋を舞台に展開する可笑しくも切ない騙し合いを描く。年老いた理髪店主 倉田和寿を緒形拳、店主がほのかな恋心を抱く従業員・佳子を富樫真、理髪店に訪ねて来る癖の強い探偵を篠井英介が演じた。台詞の余白を埋める緒形の含蓄ある演技が話題となった。
	緒形拳ひとり舞台 白野 シラノ	平成 18.10. (2006)	劇場 本多劇場 原作 エドモンド・ロスタン(『シラノ・ド・ベルジュラック』) 作 脚本 脚色 翻案 額田六福、澤田正二郎、構成 島田正吾 白野弁十郎)より 演出 鈴木勝秀	白野弁十郎		新国劇の創立者 澤田正二郎らはフランスの劇作家エドモンド・ロスタンの戯曲『シラノ・ド・ベルジュラック』を『白野弁十郎』として翻案した。幕末から明治中期までの日本を舞台とする一人芝居の形式とし、新国劇の看板俳優 島田正吾の代表作の一つとなった。その名作を緒形拳が受け継ぎ、シアター・コクーンで上演された。その後、早稲田大学大隈講堂でも上演されたが、これが緒形拳最後の舞台となった。

役名」の下線付ゴシックは主役を務めたもの
舞台の年代は、緒形が初めてその作品を演じた年に限った。